

調
査
年
報
22

調 査 年 報 22

平 成 21 年 度

平
成
21
年
度

財
団
法
人
北
海
道
埋
藏
文
化
財
セ
ン
タ
ー

財団法人 北海道埋藏文化財センター

調査年報 22

平成 21 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



TP-26人骨（小児）出土状況



TP-18人骨（複数体）出土状況



大平遺跡 竪穴住居跡調査状況



蛇内2遺跡 縄文時代中期竪穴住居跡



平地住居跡炭化材出土状況



四脚付浅鉢土器



キウス5遺跡 縄文時代中期竪穴住居跡



トーサムボロ湖周辺竪穴群 縄文時代前期竪穴住居跡

目 次

口絵

目次

北海道史略年表

平成21年度の調査

1	調査の概要	1
2	調査遺跡	4
	千歳市キウス 5 遺跡	4
	苫小牧市美沢16遺跡	9
	北斗市矢不來11遺跡	12
	北斗市館野 6 遺跡	15
	北斗市館野遺跡	18
	北斗市館野 2 遺跡	19
	木古内町大平遺跡・大平 4 遺跡	20
	木古内町蛇内 2 遺跡	24
	福島町館崎遺跡	28
	富良野市学田三区 2 遺跡	34
	富良野市学田三区 3 遺跡	36
	下川町北町 J 遺跡	38
	北見市北上 4 遺跡	40
	遠軽町白滝遺跡群	44
	釧路町天塚 1 遺跡	45
	鶴居村下幌呂 1 遺跡	46
	根室市トーサムボロ湖周辺整穴群	52
3	現地研修会の記録	56
4	協力活動及び研修	58
5	平成21年度刊行予定報告書	62
6	組織・機構	63
7	職員	64

北海道史略年表

本州の時代区分		年代 (西暦)	北海道の時代区分		平成21年度調査遺跡の主な時期		
明治～平成		A. D. 1900	(近代、現代)				
江戸時代		A. D. 1200				近世	アイヌ文化期
室町時代						中世	
鎌倉時代							
平安時代		A. D. 800	縄文文化期		キウス 5		
奈良時代		A. D. 400	オホーフク文化期				
古墳時代			統縄文時代				
弥生時代		B. C. 300					
縄 文 時 代	晩期	B. C. 1000	縄 文 時 代	晩期	下幌呂 1 大平 4、蛇内 2		
	後期			後期	下幌呂 1 館崎、学田三区 3、蛇内 2、下幌呂 1		
	中期	B. C. 2000		中期	矢不來 9、学田三区 2、キウス 5、蛇内 2 館崎、北町 J		
	前期	B. C. 3000		前期	館野 6、館崎、大平、蛇内 2 トーサムボロ湖周辺堅穴群、美沢 16		
	早期	B. C. 4000		早期	大平 4、蛇内 2、下幌呂 1		
	草創期	B. C. 7000		草創期			
		B. C. 12000				北上 4、キウス 5、北町 J	
旧石器時代		B. C. 20000	旧石器時代				

平成21年度の調査

1 調査の概要

今年度は道内10市町村に所在する14遺跡で発掘調査を実施した。このうち4遺跡は先年からの継続調査である。あらたに整理作業をおこなったのは13遺跡であり、継続で整理作業を行ったのは4遺跡である。

発掘調査を工事原因別に見ると、国土交通省北海道開発局の各開発建設部が実施する工事に伴う調査が8遺跡で、道路工事及びダムを含む河川工事に伴うものである。北海道(土木現業所)が行う工事(道路)に伴うものは2遺跡である。北海道新幹線建設局が行う工事に伴うものは4遺跡である。

以下、調査の成果を時代、時期順に略述する。縄文時代の遺跡では複数の時代の遺物が出土することが多いが、ここでは顕著なものについて重点的に記す。なお、遺構などの()数字は貝数である。

旧石器時代 北上4遺跡では、遺物集中範囲が6か所検出された。これらは細石刃石器群に含まれるが、ホロカ型細石刃核を伴うもの、尖頭器・小型舟底形石器を伴うもの、大形の石刃が含まれるものなど各種の石器群がある。キウス5遺跡で検出された細石刃石器群は、平成19年度調査範囲からの分布の続きであり、オシヨロッコ型細石刃核を伴うものである。北町J遺跡では、頁岩素材の細石刃核が出土している。

縄文時代 早期 蛇内2遺跡では後半の時代の堅穴住居跡(3)が検出されている。この遺跡からは中茶路式土器、東鋼路Ⅳ式土器が出土している。大平4遺跡では土坑(21)が検出され、中茶路式土器が出土している。下幌呂1遺跡の土坑は小型のものが多くあり、袋状土坑をはじめ、平面形が確定しがたいものなどがある。土坑のなかから中茶路式土器が出土した。

前期 美沢16遺跡では堅穴住居跡(2)、土坑(3)が検出された。堅穴住居跡は、調査区域の縁部分の位置にあり、次年度以降の調査を待つところである。土器は静内中野式が出土している。蛇内2遺跡の土坑(3)からは桔梗野式土器が出土している。また土坑(P-25)では、覆土中からトドホッケ式土器の底部が出土している。フラスコ状土坑(2)のひとつ(P-71)の底面の大きさは直径1.2mであり、円筒土器下層d式土器が出土している。

館野6遺跡では堅穴住居跡(50)、盛土遺構が重複して検出されている。これらは前期後半の円筒土器下層c式、円筒土器下層d式の時期である。これらのなかには石組炉をもつ堅穴住居跡(3)もある。土坑(18)、焼土(20)、集石(2)などの遺構は、「遺構の切りあい関係」から詳細な時代の確定ができる可能性がある。出土遺物は未集計であるが95万点ほどと推定している。

大平遺跡では、堅穴住居跡(8)、土坑(3)、埋設土器(1)、剥片集中(1)などの遺構が検出されている。これらの遺構は円筒土器下層c式、円筒土器下層d式の時期のものである。土坑のひとつは、フラスコ状土坑と呼ばれるものである。大平4遺跡の土坑(2)、集石(2)、焼土(2)、剥片集中(16)などは、円筒土器下層式の時期である。

トサムボロ湖周辺堅穴群では堅穴住居跡(9)、土坑(6)、剥片集中(1)などが検出された。調査範囲の幅が細長いので、堅穴住居跡の全容を調査できたものはないが、長径8m以上の大型のものと、直径5m前後のものに分けられる。押型文尖底土器が埋設された状態で出土した住居跡(H-3)もある。

館崎遺跡では、前期後半～中期前半、および後期前葉の時期に形成された盛土遺構を調査した。前期後半～中期前半の時代の遺構には、堅穴住居跡(22)、土坑(38)、土坑墓(4)、焼土、集石などがある。人骨が検出された土坑墓(3)のうち大型のものには8体分の頭蓋骨があり、他の二つはともに1体分の屈葬である。盛土遺構から出土した土器はその場でつぶれた状態のものが多数ある。これらの土器型式は、円筒土器下層d式、円筒土器上層a式、円筒土器上層b式である。滑石製の塊状耳飾も出土してい

る。円筒土器の時期に特徴的な扁平打製石器、北海道式石冠が多く出土している。石鏃は頁岩製のものが多く、その基部にはアスファルト付着が顕著である。

中期 北町J遺跡では珪化岩の礫・石核・剥片・砕片が出土しており、ここが剥片剥離および石器製作の場であったことを推測できる。時期を確定するに足る考古学的資料は乏しく、出土した土器も少量であり、その特色も鉤歯状の押型文がかすかに認められるだけである。

キウス5遺跡では、堅穴住居跡(20)、土坑(38)、焼土(36)などが検出された。これらの遺構の大部分は、天神山式・柏木川式などの土器の時期である。杭穴(168)は、列を成して検出されているものがあり、なかには堅穴住居跡・土坑を取り巻くような弧状の配置を読み取れるものがある。これらの杭穴は、平成8年・平成19年の調査例と同類とみなせるが、杭穴の時期を直接推定する資料は乏しい。

蛇内2遺跡の堅穴住居跡(2)のひとつ(H-2)には、掘り込みのある石組炉があり、ノダップⅡ式土器・最花式土器が出土している。

学田三区2遺跡の土坑(3)、焼土(1)は、モコト式土器の時期のものである。このうち平面形が2.7m×2mほどのものは、中央部に2点の石があり石組炉と考えられる。

下幌呂1遺跡の住居跡(20以上)の多くは、北筒Ⅱ式～北筒Ⅲ式土器の時期のものである。堅穴住居跡は、平面形は楕円形を基本とするが、不整部分が目に付く。さらに堅穴の掘り込みは深ささまざまで、床面も明瞭な平坦面を検出したものは少ない。これらの遺構には、屋根の葺き土と推定される黄色土が残存するものがある。さらに周壁の検出が困難で「平地住居跡」(4)とみなしたのから、床面から炭化材が多量に検出された(H-14ほか)。これは、やや細い垂木と横木の組み合わせが読みとれる。石器では、黒曜石製のものが多く、なかでも大型石槍が目につく。小型の石斧には石のみとしての用途が推測される。

トーサムボロ湖周辺堅穴群から、少量の北筒式土器が出土している。矢不來11遺跡ではTピット(2)が検出されている。館野6遺跡でもTピット(1)が検出されている。

後期 学田三区3遺跡では、タブコブ式土器が出土しており、石組炉(1)、剥片集中(1)などは、この土器の時期なのであろう。館崎遺跡の盛土遺構は、後期前葉にも形成されており、堅穴住居跡(2)、焼土、配石列(3)などの遺構もある。鏝型土製品も出土している。

蛇内2遺跡の堅穴住居跡(2)は、前葉の時期と推定されるもので、堅穴の内側に入り口施設に関連す平成21年度の発掘調査など

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	区分、備考
札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港開通工事	キウス5	千歳市	3,068	平成15,16,18～20年
	新千歳空港T1S用地内造成工事	オホイカ2ほか	千歳市		整理作業 平成14,16,19,20年
函館開発建設部	高規格幹線道路函館山麓自動車道	館野6	北斗市	1,360	新規
	函館改道道路工事	矢不來11	北斗市	1,349	平成17,19年
		館野ほか	北斗市		整理作業
		天塩川サングラム建設事業	北町J	下川町	1,200
旭川開発建設部	旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事	サングラム4線	下川町		整理作業 平成19,20年調査
		学田三区2	富良野市	900	新規
室蘭開発建設部	一般国道36号白老町虎杖川改良工事	学田三区3	富良野市	1,360	新規
	旭川枝別自動車道白濁丸瀬布	鹿杖浜2	白老町		報告書発行 平成20年調査
網走開発建設部	北海道新幹線自動車道網走線	ホニアヨロ4	白老町		報告書発行 平成20年調査
	石狩支庁(札幌土木現業所)	柏木川改修工事	田白濁5ほか	流経町	
網走支庁(網走土木現業所)		網走支庁(網走土木現業所)	北上4	北見市	5,092
	東日本高速道路株式会社	北海道網走自動車道建設工事	西島松2ほか	恵庭市	
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構		北海道新幹線建設事業	下幌呂1	鶴居村	1,590
	北海道新幹線建設事業	大平4	木古内町	400	新規
大平4		木古内町	1,172	新規	
蛇内2		木古内町	10,430	新規	
計				34,868	

る溝状の掘り込み2条が平行してみられた。前葉の時期のフラスコ状土坑(2)もあり、底面・覆土から
浦元2式土器・トリサキ式土器が出土している。矢不來11遺跡では、赤彩土器が出土している。

下幌呂1遺跡では鯨潤式土器の時期の大型堅穴住居跡(1)が検出された。出入り口の施設、支柱穴、
周壁の支柱穴などが確認され、「四脚付浅鉢」の完形品・漆塗りの櫛・深鉢形土器などが出土している。

晩期 大平4遺跡の土坑(3)は、大洞C式土器の時期のものである。蛇内2遺跡では大洞C式土器が出
土している。下幌呂1遺跡では、緑ヶ岡式土器が出土している。

続縄文時代 顕著な資料はない。

縄文文化期 キウス5遺跡では堅穴住居跡(2)が検出されており、そのうちのひとつは平成19年度から
の継続調査である。

継続整理・報告書作成

発掘調査によって出土した膨大な資料群について継続的に整理作業を行い、報告書を順次刊行している。

白滝遺跡群では、平成18年以降の出土資料の接合、図化、データ処理、図版作成などの作業を行って
いる。このうちホロカ沢1遺跡の舟底形石器を伴う石器群について剥片剥離技術の実態が把握できた。
それらは以下の三つに区分できる。①角礫を原材とし、幅広の石刃を製作している。この石刃は、尖頭
器・舟底形石器・靱加型細石刃核を伴う。②転礫を原材とし、打面調整・頭部調整が顕著で、やや細身
の石刃を製作している。この石刃は、尖頭器・舟底形石器を伴う。③原材の形状は把握できていないが、
打面調整、頭部調整が認められ、幅広で長大な石刃を製作している。

平成16年度に発掘調査した館野遺跡の出土品について、土器復元・遺物実測・遺構図の整理などの作
業を行っている。膨大な発掘資料のなかから、板状土偶、鏝型土製品などを抽出している。

平成20年に発掘調査した天塚1遺跡の出土品については、資料の注記・分類・接合・選別・実測など
の作業を行っている。「魚骨層」のなかから鹿角を素材とする鈎頭、シカの四肢骨製の10cm大の大型針、
鳥管骨製の直径2mmほどの小型針などが検出されている。



2 調査遺跡

千歳市 キウス5遺跡 (A-03-93)

事業名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：千歳市中央1319-8ほか

調査面積：3,068㎡

調査期間：平成21年5月7日～8月27日

調査員：三浦正人、越田雅司、愛場和人、末光正卓、広田良成

遺跡の概要

遺跡は千歳市街地から北東に約8km、馬追丘陵西側裾部のキウス川右岸に位置する。標高は6～40mである。平成6～10年度に高速道路建設に伴う発掘調査55,885㎡を当センターと千歳市教育委員会が行っている。また対岸には平成17・18年度に調査を行ったキウス9遺跡がある。

今回の調査は国道337号線の新ルート建設工事に伴うもので、丘陵端部の台地部とキウス川沿いの低位部が対象である。平成15・16年度、18～20年度に引き続き6年目の調査で、今年度は台地部3,068㎡を調査した。今年度の調査区は東側のA地区(2,098㎡)と西側のB地区(970㎡)の2か所に分かれ、A地区は平成19・20年度調査区、B地区は平成15・19年度調査区の継続調査となる。本事業に伴うキウス5遺跡の調査は今年度で終了し、延べ調査面積は19,145㎡となる。

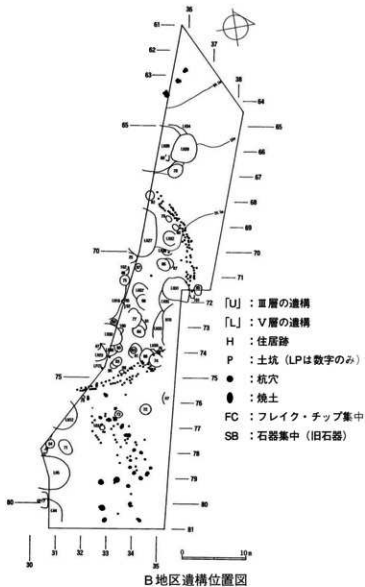
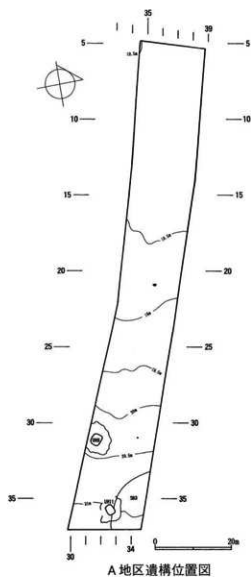
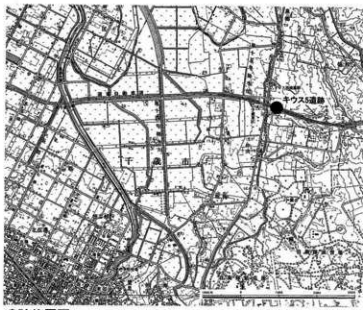
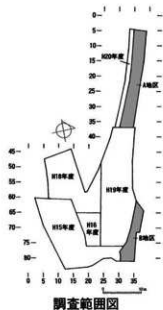
台地部の基本層序は、Ⅰ層：表土、Ⅱ層：樽前a降下軽石層(Ta-a)、Ⅲ層：第Ⅰ黒色土層、Ⅳ層：樽前c降下軽石層(Ta-c)、Ⅴ層：第Ⅱ黒色土層、Ⅵ層：漸移層、Ⅶ層：恵庭a降下軽石上位のローム層、Ⅷ層：恵庭a降下軽石層(En-a)、Ⅸ層：支笏軽石流堆積物層(Spfl)である。台地部ではⅢ・Ⅴ～Ⅶ層が主な遺物包含層である。

遺構と遺物

[A地区] 今回調査した遺構は、Ⅲ層では擦文文化期の堅穴住居跡2軒、Ⅴ層では焼土2か所である。また、擦文文化期の堅穴住居跡の内1軒(UH-9)は平成20年度の、Ⅴ層～Ⅶ層検出の後期旧石器時代の石器集中1か所(SB-3)は平成19年度の継続調査となる。

[B地区] 今回の調査した遺構は、Ⅲ層では土坑1基、Ⅴ層では、堅穴住居跡20軒、土坑38基、杭穴168基、焼土36か所、フレイク・チップ集中1か所である。このうち、南側に分布する堅穴住居跡の内6軒(LH-4・5・12・16・23・27)、土坑3基(LP-25・47・48)は平成15・19年度の、北側の堅穴住居跡2軒(H-7・10)は平成8年度の継続調査となる。時期は、堅穴住居跡・土坑・杭穴の多くが縄文時代中期後半である。遺構の分布は、調査区中央付近では堅穴住居跡・土坑・杭穴が密集し、東側では列状に並んだ焼土が多い。杭穴は平成8・19年度調査時に検出されたものに類似し、特に調査区中央付近では堅穴住居跡・土坑を取り巻くように弧状に分布する点特徴的である。

遺物は、A・B地区合わせて土器が約39,000点、石器等が約8,100点(旧石器含む)の合計約47,100点出土している。土器は、縄文時代中期後半(天神山式・柏木川式)、擦文土器が主体で、縄文時代早期・後期・晩期のものも少量みられる。石器等はフレイク・チップが多く、製品は少量である。土製品には、土器破片を三角形ないし四角形状に加工したものなどがある。石製品では、緑泥石岩製の玉などが出土している。旧石器は、オシヨロッコ型細石刃核を含む細石刃石器群で、総計約4,800点出土している。器種は、細石刃・細石刃核・彫器・搔器・石刃・剥片などがある。





竪穴住居跡 (UH-9)



UH-9 床面甕出土状況



石器集中 (SB-3) 調査状況



SB-3 石器出土状況



SB-3 細石刃核出土状況



B地区調査状況



竪穴住居跡 (LH-5)



LH-5 石囲炉



竪穴住居跡 (LH-27)



竪穴住居跡 (LH-4) 床面土器



B地区杭穴列



B地区烧土列

苫小牧市 美沢16遺跡 (J-02-204)

事業名：新千歳空港ILS用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

所在地：苫小牧市美沢185-2

調査面積：1,360㎡

調査期間：平成21年9月1日～10月28日

調査員：三浦正人、田口 尚、越田雅司、末光正卓、広田良成

遺跡の概要

遺跡は苫小牧市北部の美沢地区、市街地から北東約15km、新千歳空港B滑走路端部の南側に位置する。北側は東流する美沢川を挟んで千歳市美々地区である。美沢川を中心とする一体は新千歳空港建設用地にあたり、1976（昭和51）年から四半世紀に渡り300,000㎡近くの面積が発掘調査されてきた。これらの遺跡群は流域河川名等から、美沢川流域の遺跡群、フレベツ遺跡群、ベンケナイ川流域の遺跡群に分けられる。

本遺跡はフレベツ遺跡群に属し、フレベツ湿原に北面する標高約22mの台地と斜面部に広がる。1995（平成7）年度、B滑走路制限表面切土工事に伴い950㎡が調査され、「フレベツ遺跡群Ⅲ 美沢16遺跡」（北理調報101）を刊行している。本年度の調査区はその西側に接する台地の縁から斜面部分である。北側及び西側へと傾斜する地形で、台地の縁にあたる。平成7年度調査区と接する東側部分は、Ta-d層まで削平されていた。

基本層序は上位から現地表土、樽前a降下軽石層（Ta-a 1739年）、樽前b降下軽石層（Ta-b 1667年）、第Ⅰ黒色土層、樽前c降下軽石・スコリア層（Ta-c 約2500年前降下）、第Ⅱ黒色土層、樽前d降下軽石・スコリア層（Ta-d 約8000年前降下）である。本年度の調査は第Ⅱ黒色土層が対象である。

遺構と遺物

本遺跡の主体は縄文時代前期前半である。遺構は平成7年度の調査では、竪穴住居跡1軒（ⅡH-1）、土坑7基（ⅡP-1～7）が検出されている。本年度は調査区南側部分を中心に、竪穴住居跡2軒（ⅡH-2・3）、土坑3基（ⅡP-8～10）、炭化物集中1か所（ⅡC-1）が確認された。ⅡH-2・3は一部が確認され、ともに西側調査区外に続く。また、西側調査区壁の土層断面には、住居跡構築時に関連すると考えられるTa-d層の二次堆積（掘り上げ土）が認められた。土坑のうちⅡP-10も調査区外へと続く。

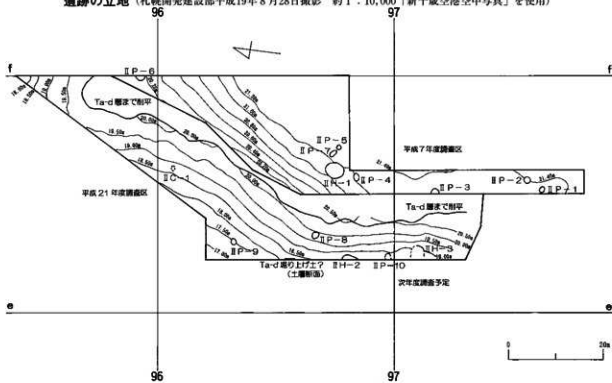
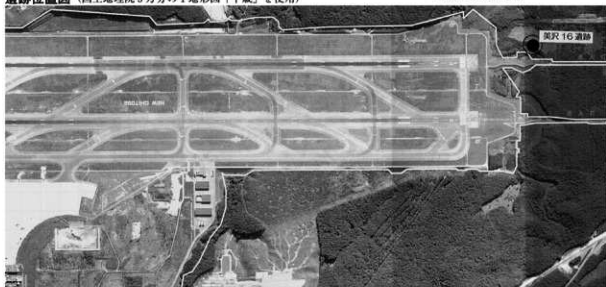
遺物は平成7年度の調査では土器684点、石器類496点（第Ⅰ黒色土層出土分等を含む）出土しており、本年度は遺構出土分も含め土器152点、石器類136点が出土した。ともに調査区南側部分に多く認められた。土器は厚手、繊維を多量に含む、幅の広い条の縄文等の特徴から、多くが静内中野式と判断される。石器類は、石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパー、U・Rフレイク、石核、磨製石斧、たたき石、砥石、石錘があり、磨製石斧はほとんどが破片である。また、典型的な石器に分類しがたい、加工・使用痕のある礫も出土している。

なお、ⅡH-2・3、ⅡP-10、Ta-d層の掘り上げ土が調査区外に広がるため、これらが存在する南西側斜面部分の工事用地内について、北海道教育委員会により再度の範囲確認調査が10月に行われた。その結果、遺跡が西側斜面部へと続くことから、発掘調査を要すると判断され、次年度に調査が予定されている。



I 層		・ 灰地粘土 (森林地土)
樺前 a 上位	・ 軽石主体	1729年以降
樺前 b 中位	・ 火山砂~火山灰主体	
軽石層 下位	・ 軽石主体	Y-a-d
樺前 b 降下軽石層	・ 軽石主体	1957年以降
第1黒色土層	・ 黒色土層	Y-a-b
樺前 c 降下軽石・スコリア層	・ 軽石主体	IB
第2黒色土層	・ 軽石主体	
樺前 d 降下軽石・スコリア層	・ 火山砂~火山灰主体	Y-a-c
	・ 軽石・スコリア	
	・ 軽石・スコリア・岩片	Y-a-d

基本層序模式図





調査区全景



基本土層



調査状況



土器出土状況



竪穴住居跡 (ⅡH-2)



竪穴住居跡 (ⅡH-3)

北斗市 矢不來11遺跡 (B-06-77)

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

所在地：北斗市矢不來270ほか

調査面積：1,349㎡

調査期間：平成21年5月12日～6月30日

調査員：村田 大、袖岡淳子、佐藤 剛、大泰司 統

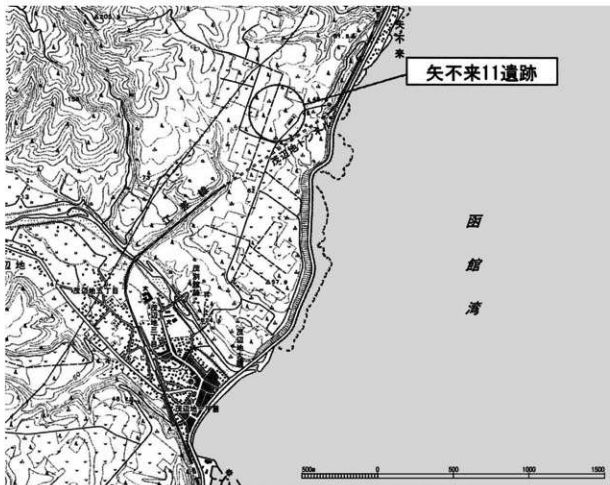
調査の概要

遺跡は、北斗市街地から南南西に約5km、海岸から約500m、標高60～65mの海岸段丘上に立地する。平成17・19年度に続いて3回目の調査である。基本層序は平成17年度の調査に準じた。それは、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土層～褐色土層（白頭山～苦小牧火山灰、駒ヶ岳d降下火山灰を含む）、Ⅲ層：黒色土（遺物包含層）、Ⅳ層：Ⅲ層からⅤ層への漸移層（遺物包含層）、Ⅴ層：黄褐色ローム質土である。

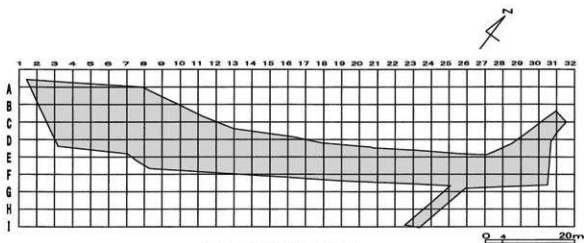
遺構と遺物

遺構は、土坑2基・Tピット2基・焼土7か所・集石1か所が検出され、縄文時代のものと考えられる。遺物は約6,000点出土した。主なものは、赤彩土器など、縄文時代後期前葉のものである。

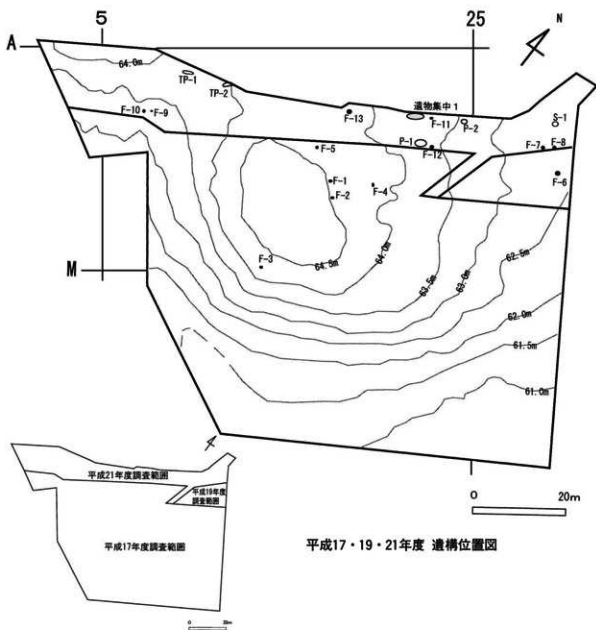
過去の調査では焼土6か所を検出し、縄文時代中期前半と後期前葉の遺物が出土している。加えて函館戦争時の銃弾がみついている。



遺跡位置図 (国土地理院2万5千分の1地形図「茂辺地」を使用)



平成21年度 調査区設定図



平成17・19・21年度 遺構位置図



調査状況



遺物集中1 検出状況

北斗市 館野6遺跡 (B-06-79)

事業名：高規格幹線道路両館江差自動車道両館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局両館開発建設部

所在地：北斗市館野91ほか

調査面積：5,763㎡

調査期間：平成21年6月8日～11月13日

調査員：村田 大、袖岡淳子、佐藤 剛、大泰司 統、佐川俊一、吉田裕吏洋

調査の概要

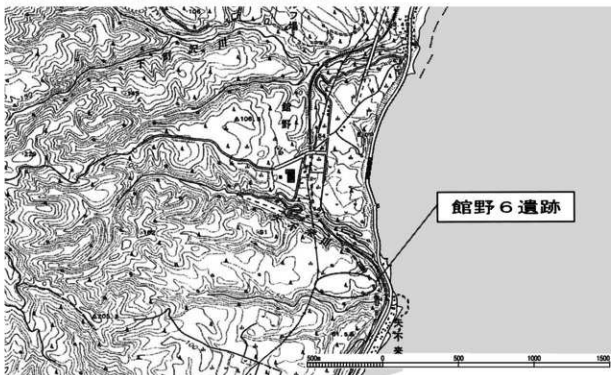
遺跡は、北斗市街地から南南西に約4.5km、海岸から約200m、標高50～60mの海岸段丘上、下矢不來川左岸に位置する。川を挟んで対岸に、矢不來台場がある。平成20年に引き続き2回目の調査である。基本層序は、前回の調査に準じた。Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土層～褐色土層（白頭山-苦小牧火山灰、駒ヶ岳d降下火山灰を含む）、Ⅲ層：黒色土(遺物包含層)、Ⅳ層：Ⅲ層からⅤ層への漸移層(遺物包含層)、Ⅴ層：黄褐色ローム質土である。縄文時代前期後半の盛土遺構の下にもⅢ層の堆積はみられたが、そこからの遺物出土はなかった。

遺構と遺物

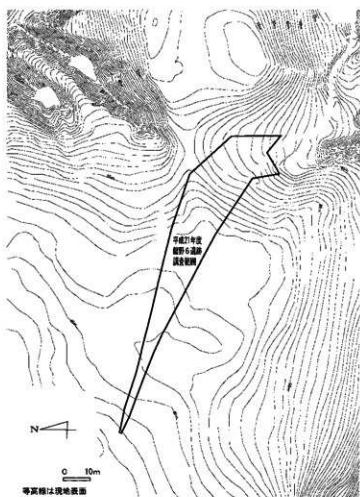
縄文時代前期後半の盛土遺構と、同時期の竪穴住居跡50軒を検出した。このうち、石組炉をもつ竪穴住居跡が3軒(H-25・26・33)ある。ほかに、焼土20か所、集石2か所、遺物集中1か所、土坑18基、Tピット1基を検出し、これらは縄文時代のもと考えられる。

出土遺物はコンテナ(59×38×10cm)で1,897箱である。遺物点数はおよそ95万点と推計される。主な遺物は盛土遺構から出土した、円筒下層c～d式土器である。

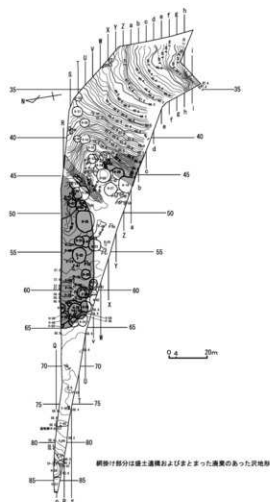
昨年度の調査では、縄文時代早期後半～前期前半の遺構(竪穴住居跡17軒、土坑43基、Tピット6基、柱穴状の小ピット198基、焼土62か所)と遺物がみつかっている。



遺跡位置図 (国土地理院2万5千分の1「茂辺地」を使用)



調査範囲図



遺構位置図



盛土遺構遺物出土状況



盛土遺構遺物出土状況



調査状況

北斗市 館野遺跡 (B-06-15)

事業名：高規格幹線道路両館江差自動車道両館茂辺地道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局両館開発建設部

所在地：北斗市館野3-3ほか

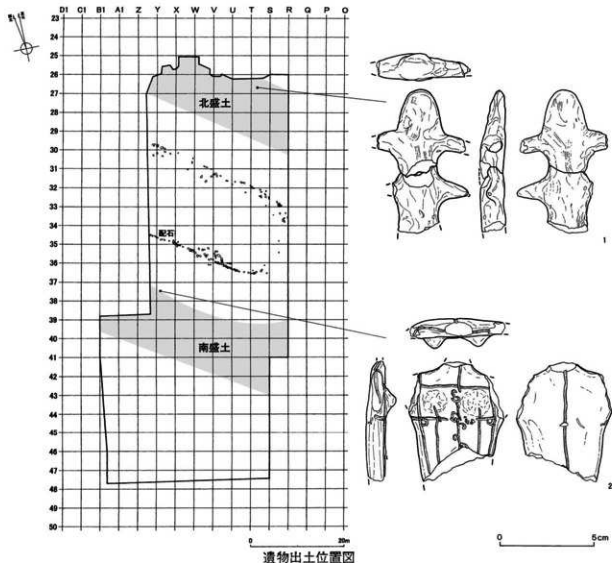
調査面積：8,565㎡（平成15年度5,750㎡、平成16年度2,815㎡）

整理期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日

調査員：佐川俊一、富永勝也

整理の概要

平成16年に検出された遺構は縄文時代中期末から後期にかけてのもので、遺物総点数は約66万点である。今年度の整理作業は昨年度に引き続き、後期初頭の盛土遺構から出土した遺物の復元・実測や遺構の図版作成を進めている。ここでは整理作業で見つけた特徴的な遺物を2点紹介する。いずれも盛土遺構から出土した。1はあまり類例のない角状の土製品である。上部はヘラ状に反り、両側面には小突起が左右2個ずつ付属する。表面にはわずかにペンガラが付着し、下部は欠損している。2は板状土偶の胴体部分の破片である。土偶は平成15年出土分と合わせると計3点になる。



北斗市 館野2遺跡 (B-06-35)

事業名：高規格幹線道路両館江差自動車道両館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局両館開発建設部

所在地：北斗市館野29-1ほか

調査面積：4,307㎡（平成19年度2,231㎡、平成20年度2,076㎡）※C地区

整理期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日

調査員：佐川俊一、皆川洋一、富永勝也

遺跡と整理作業の概要

遺跡は北斗市（旧上磯町）市街地から南南西へ約3.5kmの海岸段丘上（標高49～58m）に位置している。昭和55年11月に国道の法面保護工事に伴う工事立会調査が北海道教育委員会と上磯町教育委員会によって実施されており、縄文時代中期後半～後期前葉の遺構・遺物が多数出土している。

当センターによる調査はA～C地区の3地点に分けて実施し、A・B地区は平成19年度、C地区は平成19・20年度に調査している。

この内C地区の調査では縄文時代前期後半、中期前半・後半、後期前葉など多数の遺構・遺物が検出されている。遺構は竪穴住居跡（CH）93軒、土坑（CP）274基、焼土（CF）162か所、集石（CS）11か所、小ピット（CSP）63基、フレイクチップ集中（CFC）2か所が検出された。竪穴住居跡は中期の円筒土器上層式と大安在B式土器の時期のものが多く、これらは各集落を形成すると考えられる。この他にはサイベ沢Ⅷ式、見晴町式土器の時期の竪穴住居跡も検出されている。また竪穴住居の覆土から大量の遺物が出土するものも少なくなく、その多くは廃棄場として使われたものと考えられる。土坑は、墓と考えられるものやフラスコ状のもの、埋設土器を伴うものなどが検出されている。

遺物は約64万点が出土した。土器は円筒土器上層式、サイベ沢Ⅷ式、見晴町式、大安在B式、ノダップⅡ式、煉瓦台式が多数を占めていた。石器は石槍、石鎌、ドリル、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、扁平打製石器、石皿、台石など、土製品・石製品は土偶、シャチ形土製品（?）、石棒、石冠、石刀形石製品、玉、その他にはイルカの頭蓋骨など動物遺存体も出土している。

これらC地区で大量に出土した遺構・遺物に関しては当初計画を大きく超えていることから、本年度はそれらを対象に一次整理作業を行った。作業内容は遺物の水洗、分類、台帳作成、注記などである。それらは北斗市の整理作業場と当センターにおいて実施した。



遺物台帳作成作業



遺物注記作業

木古内町 大平遺跡 (B-05-07)・大平4遺跡 (B-05-29)

事業名：北海道新幹線建設事業地区における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査
委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局
所在地：上磯郡木古内町字大平63 (大平)・上磯郡木古内町字大平60 (大平4)
調査面積：411㎡ (大平)・1,172㎡ (大平4)
発掘期間：平成21年5月7日～10月31日
調査員：鈴木 信、山中文雄、酒井秀治

遺跡の概要

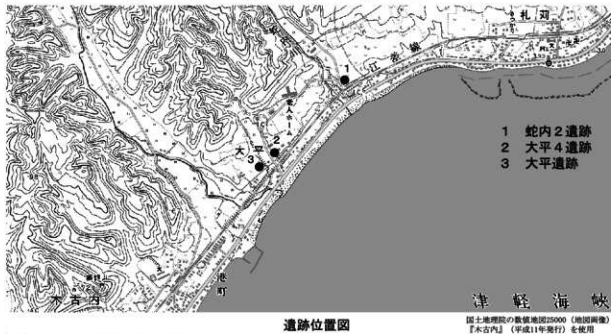
大平遺跡と大平4遺跡は、JR木古内駅から北東へ約2km、海岸段丘上の標高10m前後の地点に位置する。基本層序はⅠ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：黄褐色土である。両遺跡からは、主に縄文時代前期後半の遺構・遺物が検出されている。

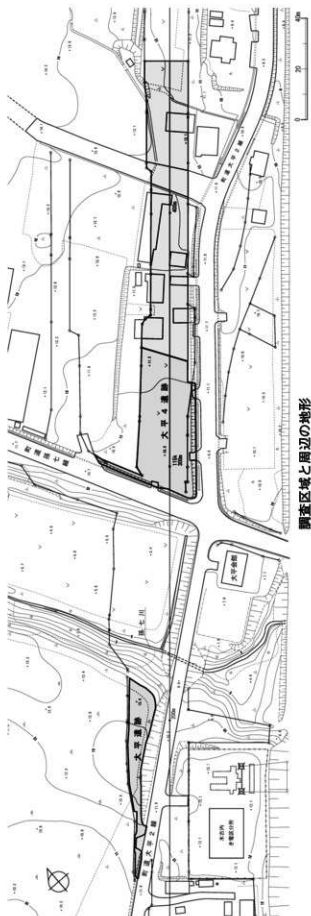
遺構と遺物

大平遺跡の調査は、周知範囲の北東端に当たり、周知範囲面積 (2,500㎡) の1.6%を占める。当遺跡の遺構構築層準はⅡ層の下位である。遺構位置は標高11.5m以上の丘陵尾根・斜面にあり、調査区のはほぼ全面に拡がる。遺構のほとんどは、長著作付けによる溝状の掘削により、寸断されていた。

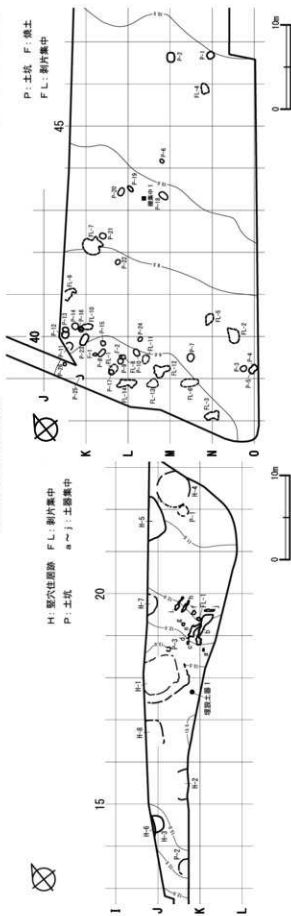
竪穴住居跡8軒 (縄文時代前期後半)、土坑3基 (縄文時代前期後半が2基、縄文時代前期後葉のフラスコ状土坑1基)、埋設土器1か所 (縄文時代前期後半)、剥片集中1か所 (縄文時代前期後半) が検出された。竪穴住居跡は縄文時代前期後半のうち円筒土器下層c～d式期に構築されている。平面形は隅丸長方形・楕円形で、長軸は北東-南西、北西-南東の2方向がある。遺物は土器約16,000点、石器等約14,000点が出土している。

大平4遺跡の調査は、周知範囲の北西外側に当たり、周知範囲面積 (3,600㎡) に1,172㎡ (24.5%を占める) が加わる。当遺跡の遺構構築層準はⅡ層の下半である。遺構位置は標高9.5～11mの丘陵斜面にあり、調査区南東側に集中する。土坑26基 (縄文時代早期後半21基、前期後半2基、晩期中葉3基)、集石1か所 (縄文時代前期後半)、焼土2か所 (縄文時代前期後半)、剥片集中16か所 (縄文時代前期後半) が検出された。遺物は土器約10,000点、石器等約30,000点が出土している。





調査区域と周辺の地形



大平遺跡 遺構位置図

大平4遺跡 遺構位置図



大平遺跡調査状況



竪穴住居跡 (H-1)



竪穴住居跡 (H-4・5)



フラスコ状土坑 (P-2)



縄文時代前期遺物出土状況



大平 4 遺跡調査状況



縄文時代早期の土坑 (P-9)



縄文時代早期の土坑 (P-24)



縄文時代前期の土坑 (P-21)



縄文時代晩期の土坑 (P-23)

木古内町 蛇内2遺跡 (B-05-19)

事業名：北海道新幹線建設事業地区における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査
委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局
所在地：上磯郡木古内町字札胡508～511・520～526・530
調査面積：10,430㎡
調査期間：平成21年5月7日～10月31日
調査員：鈴木 信、立川トマス、菊池慈人、新家水奈、芝田直人、山中文雄、酒井秀治

調査の概要

遺跡はJR木古内駅から北東へ約2.8km、蛇内川左岸の海岸段丘上に所在している。地形はほぼ平坦で、標高は10～12mである。遺跡の東側と西側の飛び地には旧河道と見られる沢地形がある。

基本土層は、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：黒色土、Ⅲ層：漸移層、Ⅳ層：黄褐色土である。Ⅱ層が主な遺物包含層である。調査前は畑や林であったため、遺跡の上面は耕作・木根等により擾乱されている。Ⅱ層中からは白頭山-苦小牧降下火山灰(B-Tm：10世紀前半降下)・駒ヶ岳d降下火山灰(Ko-d：1640年降下)が散見される。

遺構と遺物

遺構は、竪穴住居跡8軒・土坑90基・焼土17か所・集石2か所・一括土器6か所・フレイクチップ集中10か所を検出した。遺構のほとんどは、遺跡の南西側から検出している。

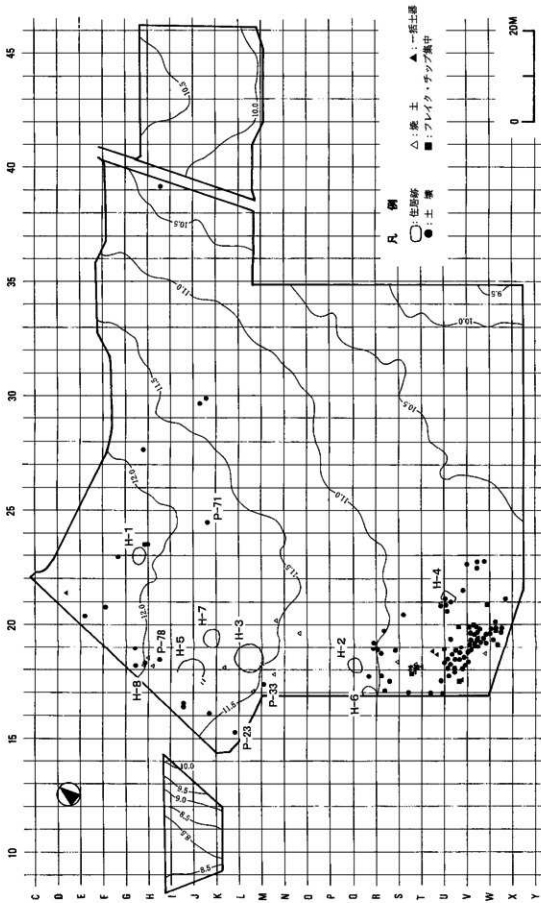
竪穴住居跡は、縄文時代早期後半3軒(H-1・6・7)、中期後半2軒(H-2・4)、後期前葉2軒(H-3・5)、不明1軒(H-8)である。H-2からは、掘り込みのある石囲炉を検出し、ノグップⅡ式土器と最花式土器が出土している。H-3・5からは、入り口と見られる溝状の掘り込みが2条平行して検出している。

土坑は、円形で直径0.8m程のものが多数を占める。覆土や周囲から出土する遺物から、縄文時代前期前半に属するものが多いと考えられる。P-25では覆土中から前期前半の榎法華式土器の底部が出土している。P-27・50・79では、桔梗野式土器がまとめて出土している。土坑のうち4基はプラスチックビットで、前期後半2基(P-71・78)、後期前葉2基(P-23・33)である。P-71は、底面径約1.2mで底面から円筒土器下層d式の土器が出土している。P-23・33は底面径が各々約2.2m・約1.8mで、P-23の底面中央には柱穴を検出した。これらの底面・覆土からは、後期前葉の涌元2式・トリサキ式土器や礫・礫石器が出土している。

遺物は、土器約15,000点、石器等約100,000点が出土している。

土器は、縄文時代早期後半の中茶路式・東銅路Ⅳ式、前期前半の桔梗野式・榎法華式・春日町式、前期後半の円筒土器下層a式・d式、中期後半のノグップⅡ式・煉瓦台式、後期前葉の涌元2式・トリサキ式、晩期中葉の大洞C式などがあり、早期後半～晩期のものが出土している。

石器等は、剥片石器では石鏃・つまみ付きナイフ・スクレイパー等が、礫石器ではたたき石・すり石等が出土している。剥片石器の石材はほとんどが頁岩である。石製品では、凝灰岩製の三角柱形石製品(一面に格子目の線刻があるもの)や三角形石製品、蛇紋岩製の垂飾等が出土している。また、海岸から持ち込まれたと考えられる円礫が、包含層から多量に出土している。円礫の石質は、主に頁岩・砂岩・凝灰岩である。



遺構位置図



調査状況



遺構調査状況



竪穴住居跡 (H-2)



竪穴住居跡 (H-3)



土坑 (P-27) の土器



土坑 (P-25) の土器



フラスコ状土坑 (P-23)



フラスコ状土坑 (P-33)

福島町 館崎遺跡 (B-03-2)

事業名：北海道新幹線建設事業のうち吉岡通信機器室の増設工事埋蔵文化財発掘調査
委託者：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局
所在地：松前郡福島町字館崎337-11ほか
調査面積：839㎡（本年度終了面積）
調査期間：平成21年5月7日～11月27日
調査員：遠藤香澄、中山昭大、影浦 覚、福井淳一、立田 理

遺跡の概要

遺跡は北海道最南端白神岬の北東約6kmの海岸段丘上に立地する。調査範囲の標高は24m前後、海岸線までの直線距離は約250mである。

過去には4次にわたって計2,590㎡の発掘が行われている。このうち今回の調査区の東側に隣接する地点を対象とした昭和59年の発掘調査では、約200㎡の範囲から55,000点もの土器が出土し、「土器塚」と称された。今回の調査で確認した盛土遺構（以下、盛土と略称）と、この土器塚とは南東-北西方向に帯状を呈する形で並行しており、一連の構築物である可能性が高い。

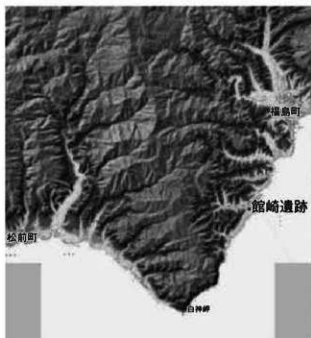
遺跡の基本土層は過去の調査に準じて、Ⅰ層：表土・耕作土、Ⅱ層：盛土層（黄褐色～黒褐色土）、Ⅲ層：黒色土層、Ⅳ層：漸移層、Ⅴ層：黄褐色土層と大別し、Ⅱ層の盛土層を細別する形で調査を進めた。今回の調査範囲では、表土からⅤ層まで連続的に自然堆積層が観察される場所はない。盛土は調査範囲の9割以上の面積を占め、盛土層が形成されていない場所では、Ⅴ層が大きく削平されているなど、盛土形成にあたって地形変化がなされている。盛土の層厚は、調査範囲内の最も厚いところで1.9mに及ぶ。

盛土は上下に大きく3つに分けられ、縄文時代後期前葉のm1層（暗褐色土）、前期末から中期前半にかけてのm2層、前期後半のm3層（黒色土）からなる。主体はm2層である。m2層は黄褐色土と黒褐色土の互層の堆積を示す部分や、黄褐色を呈するローム質土のみを盛土した部分など、堆積のあり方が一様ではない。また、炭化物層が入るところがあり、焼骨片・焼土粒・木炭などが不規則に混入している。盛土内からは、押し潰されてはいるが形状を保って出土する土器が多い。今年度は当初予定面積1,690㎡のうち839㎡を調査した。終了範囲はおおむねⅠライン以南（遺構位置図参照）である。次年度も引き続き調査を行う予定である。

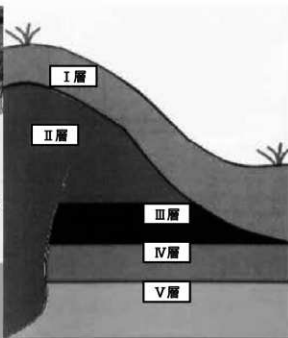
遺構と遺物

遺構・遺物は主に縄文時代前期末葉から中期前半の時期のもので、後期前葉のものもある。竪穴住居跡24軒、土坑38基、土坑墓4基（人骨10体分）、Tピット2基、焼土17か所、集石12か所、フレイク集中21か所、小柱穴80か所、骨集中3か所、配石列3条、道跡1列、近世以降と考えられる溝状遺構1条が確認されている。人骨が確認された土坑墓は3基で、うち2基は屈葬状態で1体ずつ埋葬されている。もう1基は、大型の土坑中に8体分の頭蓋骨が確認された。

遺物は約40万点が出土した。土器は円筒土器下層d式から円筒土器上層b式までが主体である。石器は石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・たたき石・扁平打製石器・北海道式石冠・石皿・台石などが多く出土している。剥片石器は頁岩を素材としたものが多い。石鏃は基部にアスファルトの付着が観察されるものが顕著である。骨角器では鉋頭や鯨骨製のものなどが出土している。また、珧状耳飾（前期）・石棒・鐸型土製品（後期）・異形石器などの遺物も出土している。



遺跡の位置



土層模式図

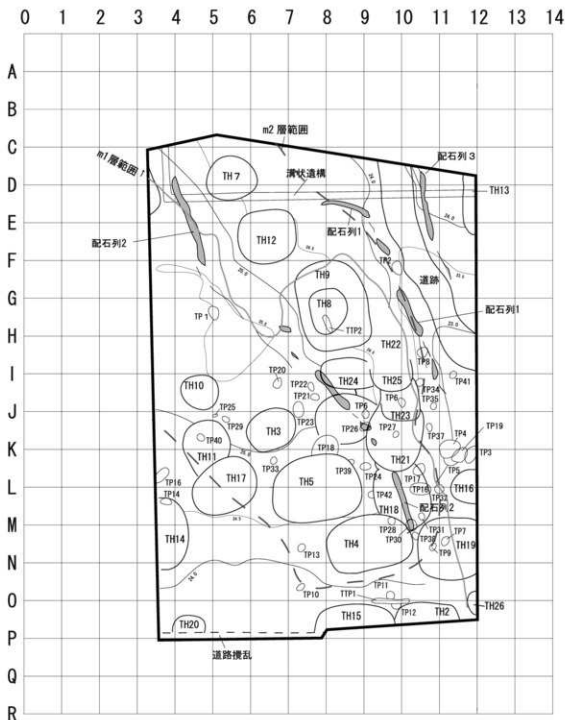


盛土遺構堆積状況

TH (竪穴住居跡) 24軒
 TP (墓坑) TP18・23・26・33 4基
 TP (土坑) 38基
 TTP (陥し穴) 2基
 TS (集石) 12カ所
 TF (焼土) 17カ所
 TB (骨集中等) 3カ所

TFC(フレイク集中) 21カ所
 TSP(小柱穴) 80カ所
 TR (道跡) 1条
 配石(列状) 3条
 道跡 1条
 個体検出土器 No245迄

※TH1 - 6は欠番である。



0 1:400 20m

遺構位置図



遺跡遠景



竪穴住居跡調査状況



豎穴住居跡調査状況



土坑墓（合葬）



土坑墓 (屈葬)



土坑墓 (屈葬)



豎穴住居跡完掘

富良野市 学田三区2遺跡 (F-04-20)

事業名：旭川十勝道路富良野市学田三区改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：富良野市学田4665ほか

調査面積：900㎡

調査期間：平成21年5月7日～7月15日

調査員：熊谷仁志、谷島由貴

遺跡の概要

学田三区2遺跡は富良野市街から北西へ約2km、富良野川左岸の低位河岸段丘上に位置し、標高は約162mである。学田三区3遺跡が上流約300mにある。調査区は平坦部分と低地部分に分けられる。

平坦部分の基本層序は次の通りである。Ⅰ層：水田・畑地の耕作土と盛土。Ⅱ層：水成による二次堆積の粘土質黄褐色土・砂・炭化物の互層。同層中に「横倒しになった草」の炭化物が認められ、平坦部が冠水した様子がうかがえる。Ⅲ層：粘土質褐色土。多量の炭化物を含む。Ⅳ層：河川堆積物の砂粒を含む粘土質黄褐色土。層厚は10～20cm程である。その下位には炭化物を含む粘質暗褐色土層（Ⅴ層）、砂層（Ⅵ層）、礫層（Ⅶ層）が認められた。遺物包含層はⅢ・Ⅴ層である。

低地部分は、空知川流域の周辺に多く見られる沼地の一部である。Ⅱ層は2m程の層厚があり、上部には多量の樹木の幹・枝などが、下部には小枝・木の葉などが厚く堆積し、クルミなどの堅果・種子・甲虫類の羽等が認められた。Ⅱ層下位に粘土層・砂層・垂門礫層が堆積していた。遺物は平坦面からの斜面部から出土し、Ⅱ層下位の粘土層・砂層から出土した。

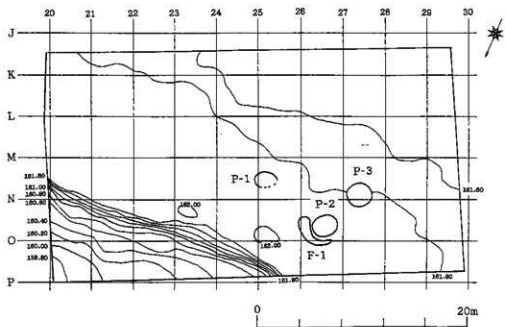
遺構と遺物

遺構は土坑（P）3基・焼土（F）1か所をⅤ層中から検出した。すべて縄文時代中期モコト式の時期である。P-1は分布調査で確認されていたもので、床面から少量の土器・石器が出土した。P-2は2.7×2mほどの楕円形の堅穴住居跡である。中央部に2個の石を配し、わずかに掘り込んだ石組炉があり、焼土中から魚骨片・焼骨・炭化物が出土している。石組炉周辺及び覆土下部は多量の炭化物および黒曜石のフレイクが集中して出土した。床面付近から炭化材が出土し、隣接して大型の焼土（F-1）が広がることから、被災住居跡の可能性がある。

遺物は、約3,400点出土した。土器の時期は縄文時代中期で、Ⅲ層・Ⅴ層からモコト式が出土した。石器は、石蕨・つまみ付きナイフ・砥石・スクレイパー等がある。



(国土地理院2万5千分の1地形図「富良野」[島の下]を使用)



遺構位置図



竪穴住居跡 (P-2)



P-2 遺物出土状況



沢部分調査状況



遺物出土状況

富良野市 学田三区3遺跡 (F-04-135)

事業名：旭川十勝道路富良野市学田三区改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：富良野市学田4665ほか

調査面積：1,360㎡

調査期間：平成21年5月7日～7月15日

調査員：熊谷仁志、谷島由貴

調査の概要

学田三区3遺跡は、富良野市街から北西へ約2km、富良野川左岸の低位河岸段丘上に位置する。約300m下流に学田三区2遺跡がある。標高は約165mである。

学田三区3遺跡は、北海道開発局旭川建設部による旭川十勝道路建設の付帯工事、富良野市学田三区改良工事に伴う用地内の埋蔵文化財包蔵地の試掘調査で、新たに確認された遺跡である。

昨年度、北海道教育委員会・富良野市教育委員会が橋脚部分の工事に先立って工事立会が実施され、縄文時代後期の土器・石器が出土している。今回調査区は、昨年度の調査区に隣接している。

基本層序は、学田三区2遺跡の基本層序に準拠した。Ⅰ層：盛土（畑・水田跡）。Ⅱ層：黒褐色～黄褐色の互層。Ⅲ層：暗褐色粘質土。Ⅳ層：黄褐色砂質土。Ⅴ層：褐色砂土。包含層はⅢ層で、Ⅳ層・Ⅴ層が消失している。調査区西側では、多量の垂円礫を主体とする礫層がⅢ層～Ⅴ層に挟入している。礫層上面から少量の遺物が出土している。

遺構と遺物

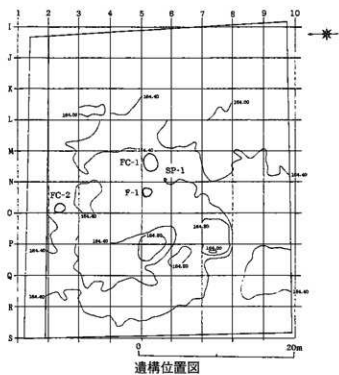
遺構は、石組炉（F）1か所、フレイク集中（FC）2か所、柱穴状ピット（SP）1基が検出された。石組炉（F-1）は一部礫列が欠損する楕円形で、垂円礫・角礫が間隔をもって配置され、周辺から石斧片や炭化材が出土している。柱穴状ピットの覆土からは礫が出土している。フレイク集中はいずれも黒曜石で、その周辺から石槍が出土している。

遺物は土器・石器等が650点出土した。土器は縄文時代晩期末葉の2点を除き後期初頭のタブコブ式土器で、1個体がまとまって出土した。昨年度の工事立会でも同様の土器が出土している。

石器は、石鎌・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー等が出土した。周辺の土器出土状況から、タブコブ式土器に伴うものと思われる。



遺跡位置図
(国土地理院2万5千分の1地形図「富良野」[島の下]を使用)



遺跡遠景



調査状況



石組炉 (F-1)



遺物出土状況

下川町 北町J遺跡 (F-21-69)

事業名：天塩川サウルダム建設事業埋蔵文化財調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

所在地：上川郡下川町字北町1129ほか

調査面積：1,200㎡

発掘期間：平成21年9月9日～10月28日

調査員：笠原 興、阿部明義

遺跡の概要

北町J遺跡は下川町の市街地から北北東へ約5km、サウル川と無名沢川が合流する丘陵斜面縁辺部に立地する。標高は約160mで、サウル川との比高は約10mである。昨年度で調査を終了したサウル4線遺跡からはサウル川沿いを南西に約400mの距離にある。要調査面積は6,950㎡で、今年度はこのうちの1,200㎡について、遺跡の全容を把握するための発掘区を設定し(右図)調査を行った。

平成18年度に北海道教育委員会が行った試掘調査の結果では、縄文時代中期ころの土器片や、珪化岩製の石器等が出土した。珪化岩は遺跡のある増塚から一の橋付近で多く産出する事が知られている。サウル4線遺跡では多量の珪化岩の原石等を採取する事ができ、珪化岩を利用した石器や石器製作の痕跡等も確認された。山地形の反対側山麓には学史的に有名なモサウル遺跡もあり、多くの珪化岩が石器の素材に用いられている。千葉大学の中新世植物化石の調査では、当遺跡周辺に分布する中新世モサウル層の上部には、珪化植物化石を多く含む珪化岩帯の存在があることが指摘されている。モサウル層珪化岩中の植物化石の中には三次元構造を保ったままの葉や根茎の化石があって、世界初の事例として確認



天塩川サウルダム建設事業用地内における要発掘調査遺跡の位置
(国土地理院2万5千分の1地形図「サウル」下川)を使用)



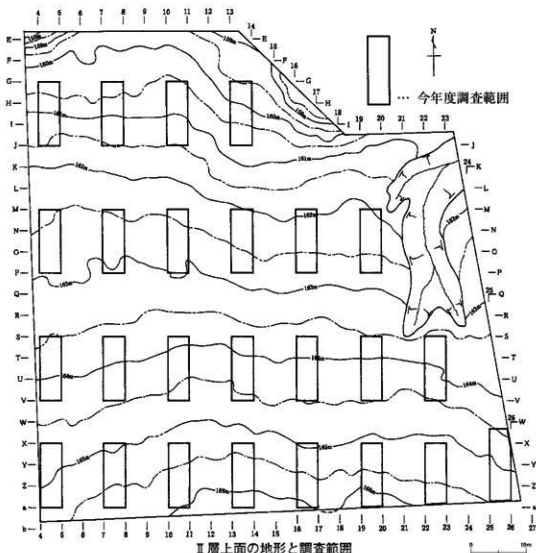
調査状況

された貴重な資料もある。

基本土層はⅠ層表土：腐植土＋笹根、Ⅱ層：暗褐色～褐灰色植壤土、Ⅲ層：明褐色～橙色植壤土（漸移層）、Ⅳ層：橙色土砂礫混じり粘質土である。

遺構と遺物

遺物は石器等が2,095点、土器片14点、計2,109点出土した。遺物包含層はⅡ層～Ⅲ層である。土器はいずれも風化が進んでおり、表面が摩滅している。この中には鋸歯状の押型文が施されるものが認められる。石器類は大半が剥片で、その他にスクレイパー・二次加工痕のある剥片・石核等も出土している。石材は珪化岩が約9割を占め、次いで黒曜石、さらに乳白色を呈した珪質頁岩もわずかにある。この他特徴的なものに自然面（表面）に凸凹のある名寄産の黒曜石がある。名寄地域では上名寄地区・忠烈布地区・智恵文川・智南地区等から円盤状の黒曜石が採取できる。また、Ⅱ層からⅢ層にかけてフレイク集中が6か所で確認された。いずれも範囲は小規模なものであるが、100点を超える集中域が4か所ある。なかでもM10グリッドからは珪化岩製のフレイクチップ等が約700点を数えた。T7グリッドからは頁岩製の細石刃核・細石刃が出土した。出土遺物の分布を見ると南東方向の山地から北西方向の標高約165m～162m付近に分布している。各集中内をみると微細なフレイクチップが大半を占め、同一母岩と認定できるような石核等は見られない。



北見市 北上4遺跡 (I-02-450)

事業名：北海道横断自動車道調子府網走線調子府北見間改良工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

所在地：北見市北上433

調査面積：5,092㎡

調査期間：平成21年8月5日～10月30日

調査員：熊谷仁志、谷島由貴

遺跡の概要

北上4遺跡は、北見市街から南西へ約6km、常呂川とその支流調子府川にはさまれる台地上に位置し、標高は約90～95mである。周辺には北上台地遺跡や広郷遺跡等の旧石器時代の遺跡が分布する。調査区は、中央部に沢状の低地、それを取り囲む舌状の尾根部分と緩斜面からなる。

基本層序は次の通りである。Ⅰ層：表土・黒色土。Ⅱ層：黒色土。上部に層前a火山灰(1739年降下)、駒ヶ岳c火山灰(1694年降下)、摩周b火山灰(10世紀降下)がみられる。Ⅲ層：暗褐色土(漸移層)。Ⅳ層：暗黄褐色粘質土、間層に砂層。Ⅴ層：暗黄褐色粘質土、パミスが混じる。Ⅵ層：暗褐色砂質土。Ⅵ層の砂層は屈斜路軽石流堆積物(約32,000年以降)である。舌状の尾根部分ではⅤ層が欠落する。沢部分ではⅥ層まで削られ、上部にⅠ層・Ⅱ層が、下位には二次堆積の砂層(S2層)、砂粒を含む粘質土層(NS層)、粘質土層が互層となって堆積する。

遺構と遺物

遺構は焼土(F)3か所、礫集中(S)1か所、炭化物集中(Cb)4か所が検出された。焼土1か所(F-3)を除き旧石器時代の遺構である。遺構は、遺物集中地点の範囲から検出されたものが多い。

遺物は6,200点出土し、遺物集中地点を6か所(ブロック:Bl.1～6)確認した。舌状の尾根部分と緩斜面では主にⅡ層～Ⅳ層から、沢部分では二次堆積のS2層・NS層・粘質土層から出土した。遺物出土状況は比較的まとまりが認められ、緩やかな安定した時期があったと推定される。Bl.1・2は南側の舌状の尾根から検出し、Bl.1は先端部、Bl.2はやや北側に位置する。この付近では基本層序のⅤ層が欠落し、遺物はⅢ層～Ⅵ層上部から出土した。Bl.3・4は中央部の沢部分から検出した。遺物はBl.3ではⅣ層～Ⅵ層上部から、Bl.4は明瞭なまとまりが認められない状況でNS層中から出土した。Bl.5・6は西側斜面から検出した。遺物は、Bl.5は斜面のNS層中から、Bl.6はⅣ層中から出土した。各ブロックの特徴は以下の通りである。

Bl.1：ホロカ型細石刃核・彫器・削器・搔器と共に多量の細石刃・フレイクが出土した。Bl.3との接合が認められる。分布範囲内の北側Ⅲ層からF-1が検出された。なお、分布範囲内のⅡ層から北筒式土器が1個体出土した。

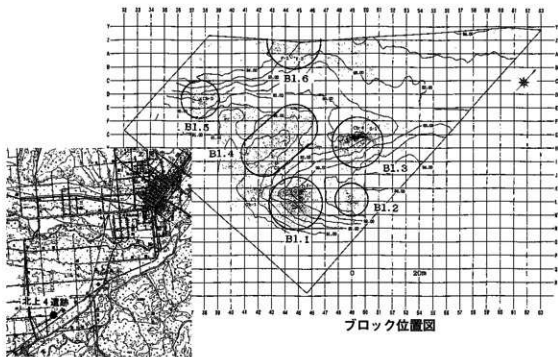
Bl.2：Bl.1のやや北側に位置する。尖頭器・小型舟底彫器・石刃核と共にフレイクが出土した。Bl.6との接合が認められる。

Bl.3：細石刃核・彫器・削器・搔器と共に多量の細石刃・フレイクが出土した。Bl.1との接合が認められる。石器組成はBl.1と類似する。ブロック中央部Ⅲ層下部～Ⅵ層上部からS-1・Cb-4が検出された。

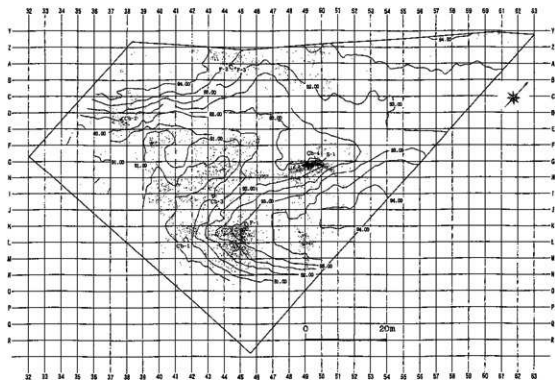
Bl.4：削器・搔器・礫器・石刃核と共に大型の石刃・フレイク・礫が出土した。

Bl.5：細石刃核・削器・搔器・礫器と少量の細石刃・フレイクが出土した。ブロック中央部NS層からCb-2が検出された。

Bl.6：尖頭器・削器・礫器とフレイクが出土した。ブロック中央部からF-2・3が検出された。



(国土地理院5万分の1地形図「北見」を使用)

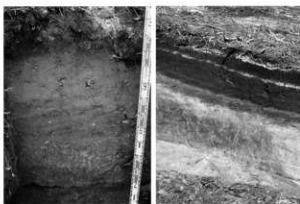




遺跡遠景



調査状況



基本土層

沢部分土層断面



調査状況



調査状況



焼土 (F-1)



集石 (S-1)



ブロック3 遺物出土状況



ブロック1 遺物出土状況



ブロック3 遺物出土状況



ブロック4 遺物出土状況



ブロック5 遺物出土状況

遠軽町 白滝遺跡群

事業名：旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

調査員：坂本高史、直江康雄

整理の概要

白滝遺跡群では、平成18年度以降に調査した各遺跡について二次整理作業を行っている。作業内容は報告年度によって異なり、下記のとおり進行している。

平成22年度刊行予定【ホロカ沢Ⅰ遺跡…図化・データ処理・図版作成作業】

平成23年度刊行予定【旧白滝15遺跡…接合・データ処理・図化作業】

平成24年度刊行予定【旧白滝5遺跡…接合・データ処理・図化作業】

平成25年度刊行予定【旧白滝3遺跡…分析（黒曜石産地分析、放射性炭素年代測定）・接合作業】

ここではホロカ沢Ⅰ遺跡出土の舟底形石器を伴う三つの石器群について述べる。ホロカ沢Ⅰ遺跡は黒曜石産地の赤石山から流れ出る幌加湧別川と湧別川の合流点から、約300m下流の河岸段丘上に立地している。調査面積は4,461㎡、遺物は約11万5,400点（地点計測2万2,724点）が出土している。

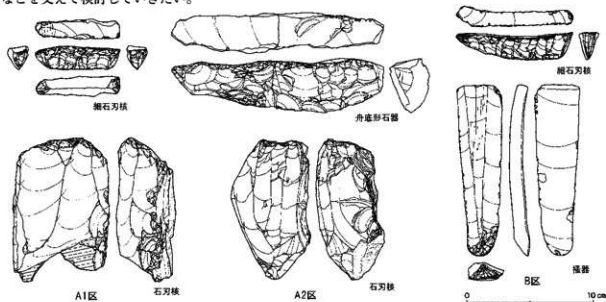
出土遺物は分布と技術的な内容から三つの石器群（A1区・A2区・B区）に分離することができる。各石器群は舟底形石器と石刃技法を組成し、特に石刃技法について以下の技術的な差異が認められる。

A1区石器群：主に黒色の角礫を石核の素材とする。母型整形は希薄。平坦打面から頭部調整を施し、主に幅広の石刃を生産する。尖頭器・舟底形石器・靱加型細石刃核を伴う。

A2区石器群：主に黒色の転礫を石核の素材とする。母型は主に背部から作業面方向への側面調整によって準備される。頻繁な打面調整・頭部調整を施し、やや細身の石刃を生産する。尖頭器・舟底形石器を伴う。

B区石器群：石核の素材と母型の準備段階については不明。打面調整と頭部調整を施す。幅広で長大な石刃を生産し、その頭部と背面上半部には擦痕が観察される。舟底形石器・靱加型細石刃核を伴う。

各石器群の剥離技術や組成の差異については、さらに分析を加えて詳細を明らかにし、他遺跡の類例などを交えて検討していきたい。



ホロカ沢Ⅰ遺跡出土遺物

鋼路町 天享1遺跡 (M-02-28)

事業名：町道床丹5号線道路改良事業埋蔵文化財調査

委託者：鋼路町

所在地：鋼路郡鋼路町中央7-15

調査面積：700㎡ (平成20年度)

整理期間：平成21年4月1日～平成22年3月31日

調査員：鈴木宏行

整理の概要

平成20年度の調査で、堅穴住居跡4軒、土坑29基、焼土12か所、集石6か所、斜面部において魚骨層が検出されている。遺跡の形成時期は縄文時代晩期後葉～続縄文時代後期後半で、遺物は土器・石器・骨角器など約22万点が出土し、その他19㎡の魚骨層から多くの動物遺存体が回収された。

今年度は遺物の注記・分類などの一次整理の後、土器の接合、動物遺存体の選別などの二次整理、土器・石器・骨角器などの実測作業、各種分析を行っている。ここでは縄文時代晩期後葉(緑ヶ岡式期)の遺跡の様相について紹介したい。

帰属時期の不明な土坑を除いて、当該期の遺構・遺物はそのほとんどが斜面部の魚骨層とその上位のⅢ層で検出されている。魚骨層からは緑ヶ岡式の土器、石器、骨角器、魚骨、鳥骨、獣骨が出土している。炭化クルミ片18点について行った魚骨層の放射性炭素年代測定の結果、 $2,460 \pm 30 \sim 2,370 \pm 30$ yrBPの年代値が得られ、概ね下位から上位の層へ年代値が新しくなる傾向がある。土器に関しては沈線文・綾織り文・条痕文など緑ヶ岡式がほぼ単一出土し、少量大洞A式とみられる壺形土器の破片が検出されている。これらのことから魚骨層は比較的短い期間に形成されたようである。

石器はほとんどが黒曜石製で、当該期に特徴的な幅広の基部・尖頭状の先端部をもつナイフ、有茎・無茎の石鎌、スクレイパー類があり、器種により角礫・転礫が別に利用されており、石材産地・搬入形態に違いがあるようである。

骨角器は主に鹿角を素材とした鉋頭、シカの四肢骨製の10cmを越える大型針や鳥管骨製の直径2mmほどの小型針があり、その他、鳥管骨の両端を切断したものや一端を斜めに切り出したもの、スパイラル剥片の先端部縁辺を丸くしたものがあるが、現段階では明確な釣針は見つかっていない。

魚骨はイトヨが圧倒的に多く、カレイ科、ヒラメが続き、ウグイ、スズキ、サケ科、ボラ、キュウリウオ科などが出土している。ほとんどが砂泥底に棲息するもので周辺の環境を示している。ヒラメ・スズキは現在、鋼路近海には分布しておらず、当時の気候が温暖ないし海流の変化など条件が異なっていたと思われる。また、カレイ科の中では現在希少なマツカワとみられる前上顎骨・歯骨が多い。

ところで、本遺跡は現在の海岸線より鋼路川を遡って5.5km内陸に位置している。魚骨層が形成された背景として本遺跡が内湾に面していたと推測され、現在とは異なる環境を想定する必要がある。

鳥骨はハクチョウ類・ガンカモ類を主体としてアホウドリなどが、陸棲哺乳類はイヌ・シカを主体に、イノシシなどが、海棲哺乳類はイルカ・アシカ・オットセイ・ラッコなどが少量出土している。特にイヌは多く、下顎骨で10個体ほど検出され、幼獣から成獣まで幅広い年齢構成である。イノシシは切歯を中心に下顎骨や種子骨が出土するのみで部位の偏りが大きく、また大型の個体が含まれる。

以上のように魚骨層の整理作業を通して、縄文時代晩期後葉の鋼路地域における緑ヶ岡式の土器の構成、石材の利用、骨角器製作、漁労・狩猟などの生業活動に関する情報が得られている。また大洞系の土器・黒曜石・イノシシの入手などについては、鋼路地域を越えた広域的な視点で位置づけていく必要がある。

鶴居村 下幌呂1遺跡 (M-8-16)

事業名：鋼路鶴居弟子屈線交安1種（統合）工事（中央帯）に伴う埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道鋼路支庁（鋼路土木現業所）

所在地：阿寒郡鶴居村字幌呂原野基線29-2

調査面積：1,590㎡

調査期間：平成21年5月7日～8月28日

調査員：佐藤和雄、笠原 興、土肥研晶、阿部明義

遺跡の概要

下幌呂1遺跡は鶴居市街地の約8km南、鋼路湿原北西縁辺部に位置し、^{みまか}離阿寒岳外輪山から南東に向かった鋼路湿原に注ぎ込む幌呂川右岸の河岸段丘上に立地する。鋼路湿原周縁の台地や河川の流域には多くの遺跡が分布し、遺跡の南方10kmには北斗遺跡が位置する。下幌呂1遺跡は幌呂川に沿って長さ約1.5km、幅250～300mの範囲に広がることが確認されている。調査区はほぼ平坦で、標高は約14mである。

基本層序は右図の通りである。Ⅲ層の樽前c降下火山灰は調査区全域には分布せず、風倒木痕や遺構のくぼみにやや厚く堆積している。主な遺構構築面および遺物包含層はⅣ層である。

平成19年度は610㎡を調査した。遺構の密度が濃く、竪穴住居11軒・土坑27基・焼土14か所・盛土遺構1か所が検出された。遺物は土器・石器等約4万3千点が出土した。注目される遺物としては、縄文式期の住居跡から出土した完形の小型注口土器がある。

遺構と遺物

遺構は住居跡27軒（竪穴住居跡および「平地住居跡」）・土坑61基（墓含む）・柱穴状小ピット17基・焼土18か所・フレイクチップ集中6か所・礫集中5か所が検出された。遺物は、土器・石器等約4万3千点が出土した。

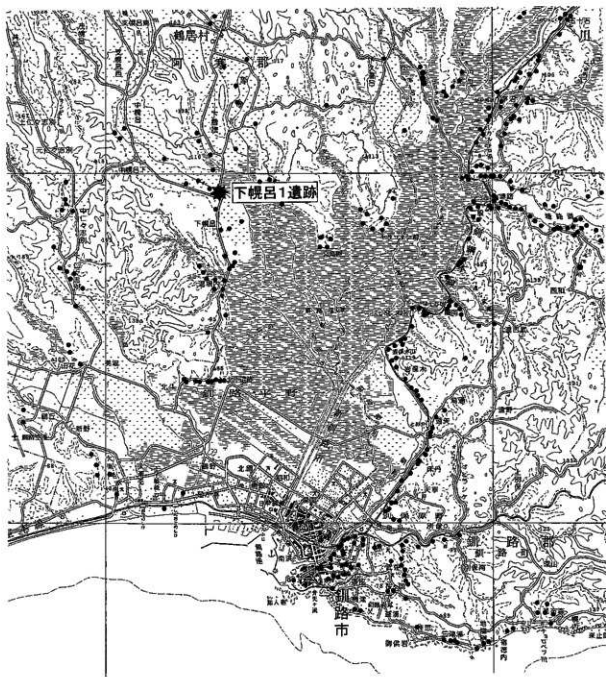
縄文時代早期後葉では、小型の土坑が数多く検出された。袋状土坑やU字形・細長い形状などがある。中茶路式土器がまとめて出土した土坑もある。

縄文時代中期末～後期初頭では、20軒以上の住居跡が検出され、遺跡の主体時期となっている。竪穴住居跡は、やや不整の楕円形のものが多い。竪穴の深さは多様であり、床面が平坦でないものが目立つ。炉は地床炉が多いが、小土坑中に形成されたものもある。柱穴は確認できたものが少ない。また炭化材や屋根の葺き土と推定される黄色土が残る住居跡がある。炭化材の中には、繊維状のものも含まれている。一方、壁が不明瞭でわずかにくぼみのある「平地住居跡」が4軒ある。屋根を構成したと考えられる炭化材や屋根の葺き土と推定される黄色土が残っており、斜里町来運1遺跡の「焼けた土葺伏屋式平地建物跡」（斜里町教育委員会2006）に類するものがある。うち1軒（H-14）では、炭化材が周縁部の大部分から検出された。やや細い垂木と横木が組み合わされ、1.5m×2m程度の単位があり、住居内側に倒れたと推定される。

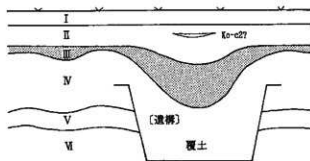
土器は住居跡や周辺包含層から北筒Ⅱ～Ⅲ式が出土した。石器は黒曜石の剥片が多数を占め、定形的な石器では大型の石槍が目立つ。ほかに素材となる剥片をわずかに加工したスクレイパー類が多い。礫石器は小型の石斧または石のみなどが少量ある。

縄文後期中葉の縄文式期では、大型竪穴住居跡が1軒検出された。出入口構造をもち、主柱穴のほか竪穴周辺にも支柱穴がある。実際から完形の「四脚付浅鉢」のほか、漆塗りの櫛、深鉢形の個体土器などの遺物が出土しており、廃屋時の儀礼的要素がうかがえる。

縄文晩期では、縄文中期～後期の竪穴住居跡の覆土から焼土が検出され、縁ヶ岡式土器が出土した。

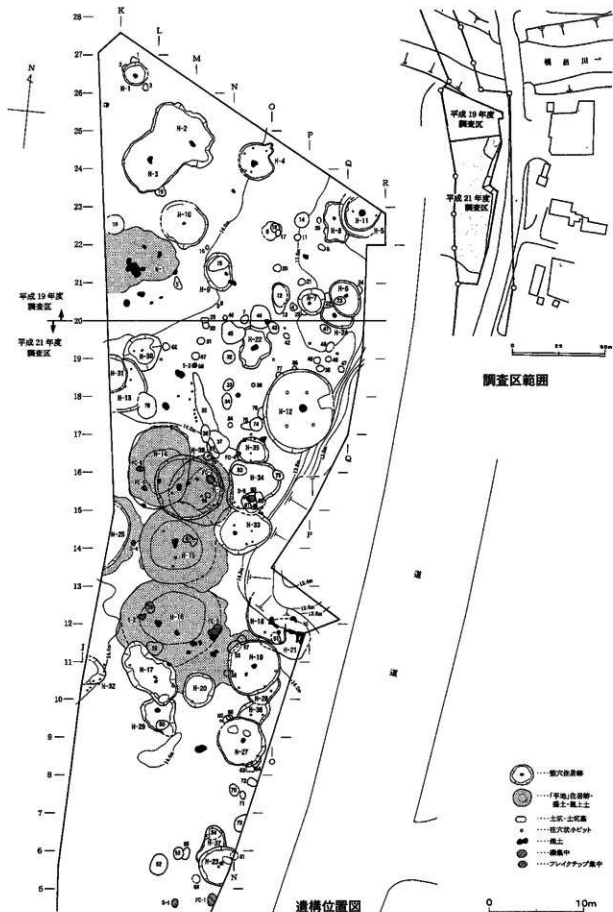


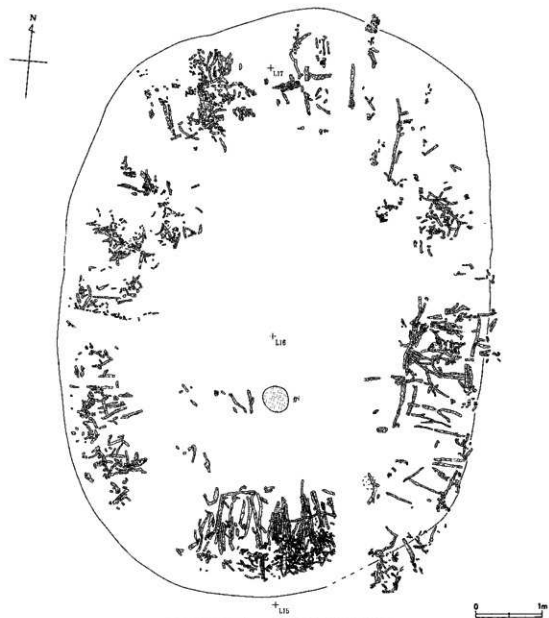
遺跡の位置 (国土地理院発行 20 万分の 1 地勢図「創路」を使用)



基本土層

- I 層：表土
- II 層：黒色土
- III 層：樽前 c 降下火山灰 (Ta-c)
- IV 層：黒色土
- V 層：漸移層
- VI 層：黄褐色土 (ローム)





平地住居跡 (H-14) 炭化材出土状況



平地住居跡 (H-14)



炭化材出土状況



調査状況



竪穴住居跡 (H-23)



土器出土状況 (H-26)



土坑 (P-35)



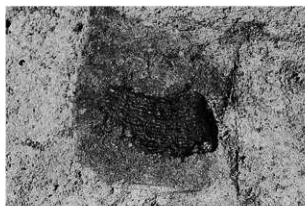
竪穴住居跡 (H-12)



四脚付浅鉢出土状況 (H-12)



土器出土状況 (H-12)



櫛出土状況 (H-12)



炭化材出土状況 (H-12)

根室市 トーサムボロ湖周辺竪穴群 (N-01-1)

事業名：道道根室半島線特殊改良第1種工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道鋼路支庁（鋼路土木現業所）

所在地：根室市豊里131-1

調査面積：400㎡

調査期間：平成21年8月31日～10月29日

調査員：三浦正人、越田雅司、愛場和人、広田良成

遺跡の概要

遺跡は根室半島突端の納沙布岬から西に5km程、オホーツク海に面するトーサムボロ湖周辺に位置する竪穴群である。トーサムボロ湖は北側に湖口がある周囲約3kmの汽水湖で、周囲には縄文時代前期からオホーツク文化期の竪穴とみられる窪みが1,000か所以上存在する。遺跡は古くから知られており、昭和15年から北構保男氏、東京教育大学（現筑波大学）、北地研究会により竪穴分布調査や縄文時代前期・縄文時代中期・オホーツク文化期の竪穴住居跡などの発掘調査が行われている。

今回の調査区はトーサムボロ湖東岸の半島状に突き出た段丘上にあり、東京教育大学が昭和39年に調査したL1地区にあたる。標高は約14m～19mである。

基本層序はⅠ層：表土・Ⅱ層：灰白色火山灰（まじり黒色土）・Ⅲ層：黒色土・Ⅳ層：摩周テフラ（Ma-i-j）・Ⅴ層：黒色土・Ⅵ層：黄褐色ロームである。このほか一部の遺構覆土中には樽前c火山灰の可能性のある土層がみられた。遺構・遺物ともⅢ層からの検出で、Ⅴ層から遺物は出土していない。

遺構と遺物

検出された遺構は竪穴住居跡9軒（H-1～9）、土坑6基（P-1～6）、フレイク集中1か所、そのうちH-1は東京教育大学が調査した25号竪穴であると確認した。いずれも縄文時代前期の遺構と考えられ、段丘の低位と高位の平坦面に分布している。なお道路の改良工事に伴う調査のため調査区の幅が狭く、全面調査できた遺構はない。

竪穴住居跡は長径8m以上のものと直径4～6m程のものがある。大型のものは平面形が隅丸方形もしくは楕円形となりそうで、柱穴が多くみられる。H-2は長径が12mを越えそうなので、床面が熱を受けており、焼失住居の可能性が大きい。直径4～6mの住居跡は平面形が隅丸方形もしくは多角形となる。掘り込みがごく浅いものや中央部が一段低くなる構造のものがある。またH-3では押型文尖底土器が床面に埋設された状態でみつかった。

土坑は竪穴住居跡と同じ分布域にあり、住居跡と切り合うものもある。平面形は楕円形で、直径は1.5～2m程である。覆土中からは土器や礫石器が出土するものが多い。

遺物は土器約1,900点、石器約6,000点が出土した。土器はほとんどが縄文時代前期の押型文尖底土器で、北筒式土器が少量みられる。石器はフレイクが多く、他に石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・砥石・石鏃などがある。



基本土層模式図



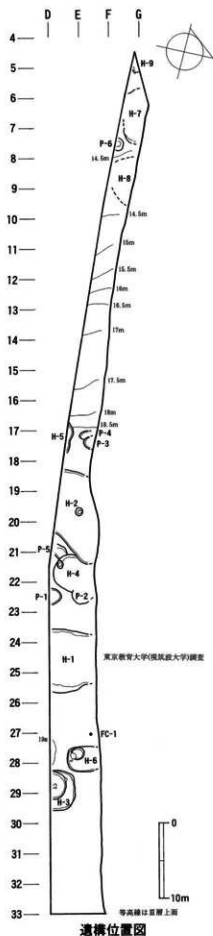
遺跡の位置

この図は調査と発掘範囲(1/2000)「調査区画」(黒色土)を明示し、一般図解したものである。



遺跡周辺の地形と調査区

この図は調査区画内(京大で、考古学研究所調査区画)「発掘区画」(黒色土)の位置(黒色土)を明示したものである。



遺構位置図



調査区全景



竪穴住居跡 (H-2) 遺物出土状況



H-2 床直上土器



竪穴住居跡 (H-1) 完掘



竪穴住居跡 (H-6) 遺物出土状況



竪穴住居跡 (H-3) 完掘



H-3 埋設土器と石器



土坑 (P-2) 遺物出土状況



調査状況

3 現地研修会の記録

9月17日(木)、18日(金)に北斗市、木古内町、知内町、福島町を会場にして現地研修会を行った。今回は研修テーマを「津軽海峡域での円筒土器文化」とし、当埋蔵文化財センターが調査中の遺跡を重点的に見学した。また、知内町郷土資料館では収蔵・展示してある埋蔵文化財を見学した。さらに、近年その存在が知られることになった「知内町涌元(わきもと)古銭」を実見した。

知内町教育委員会、知内町郷土資料館学芸員高橋豊彦氏には、好意に満ちた対応をしていただいた。ここに記して感謝の念をあらわしておきます。

参考文献 「知内町涌元古銭の調査—第1報」中村和之ほか『出土銭貨』第29号 2009年5月

以下に研修会の概要を記しておく。

- | | | |
|--------|------|---------------------------|
| 17日(木) | 北斗市 | 館野6遺跡：縄文時代前期後半の盛土遺構、集落 |
| | 木古内町 | 蛇内2遺跡：縄文時代早期、前期、中期の集落 |
| | 知内町 | 知内町郷土資料館 |
| 18日(金) | 福島町 | 館崎遺跡：縄文時代前期、中期、後期の盛土遺構、集落 |
| | 知内町 | 涌元古銭出土地 |



北斗市館野6遺跡での研修



福島町館崎遺跡での研修



現地研修会参加者

4 協力活動及び研修

(1) 協力活動

ア 発掘現場見学

*千歳市キウス5遺跡 (NHK新さっぽろ文化教室「北の遺跡をめぐる」)	5月28日
*千歳市キウス5遺跡 (国家公務員研修地方自治体実地体験千歳市担当)	6月12日
*千歳市キウス5遺跡 (大阪府立弥生文化博物館「北海道史跡と考古の旅」)	7月7日
*鶴居村下幌呂1遺跡 (同上)	7月8日
*福島町館崎遺跡 (福島町立吉岡中学校)	7月14日
*木古内町蛇内2遺跡 (木古内町文化財審議委員会)	7月15日
*鶴居村下幌呂1遺跡 (標茶町郷土館縄文友の会)	7月16日
*北斗市館野6遺跡 (北斗市教育委員会初任者研修)	7月17日・21日、8月28日
*鶴居村下幌呂1遺跡 (鶴居村立下幌呂小学校)	7月21日
*木古内町蛇内2遺跡 (七飯町歴史館「ジュニア体験クラブ」)	7月28日
*福島町館崎遺跡 (福島町民遺跡見学会)	8月2日
*千歳市キウス5遺跡 (長沼町南部育成会)	8月4日
*木古内町蛇内2遺跡・福島町館崎遺跡 (鋼路考古学研究会)	8月31日
*根室市トーサムボロ湖周辺堅穴群 (札幌大学川上淳教授ゼミナール)	9月10日
*福島町館崎遺跡 (福島町立福島小学校)	9月11日
*北斗市館野6遺跡 (市立函館博物館)	9月19日
*北見市北上4遺跡 (全道高等学校理科研究発表大会に伴う巡検研修)	10月9日
*福島町館崎遺跡 (南北海道考古学情報交換会遺跡見学会)	10月12日
*下川町北町J遺跡 (北海道風連高等学校平成21年度地域巡検)	10月13日
*下川町北町J遺跡 (下川町文化財保護審議委員会)	10月21日

イ 委員会

*北海道文化財保護協会文化財情報編集委員会 (札幌市)	
《出席》越田 (賢)	1月19日
*史跡標津遺跡群、天然記念物標津湿原整備委員会 (標津町)	
《委員》畑	1月19日
*平成20年度北海道文化財保護協会第3回常任理事会 (札幌市)	
《常任理事》畑	1月26日
*史跡最寄貝塚保存整備委員会 (網走市)	
《委員》畑	2月5日
*北海道教育関係公益法人協会平成20年度通常総会 (札幌市)	
《出席》佐藤 (俊)	3月13日
*史跡カリンバ遺跡整備計画策定委員会 (恵庭市)	
《委員》畑	3月25日
*北広島市文化財保護審議委員 (北広島市)	
《委嘱》藤井	4月1日～平成23年3月31日

- * 史跡最寄貝塚保存整備委員（網走市）
〈委嘱〉畑 4月1日～平成23年3月31日
- * 平成21年度北海道文化財保護協会第1回常任理事会（札幌市）
〈常任理事〉畑 4月24日
- * 平成21年度北海道文化財保護協会第1回役員会（札幌市）
〈常任理事〉畑 4月24日
- * 北海道文化財保護協会理事（札幌市）
〈委嘱〉越田（賢） 5月31日～平成23年度通常総会開催日
- * 財団法人北海道生涯学習協会理事（札幌市）
〈委嘱〉畑 6月1日～平成22年5月31日
- * 第1回史跡カリンバ遺跡保存管理計画策定委員会（恵庭市）
〈委員〉畑 7月9日
- * 平成21年度北海道文化財保護協会（新体制での）第1回常任理事会（札幌市）
〈常任理事〉畑 7月27日
- * 北海道文化財保護協会創立50周年記念事業等実行委員会の組織・行財政部会（札幌市）
〈委員〉畑 9月7日
- * 北の縄文世界展実行委員（札幌市）
〈委嘱〉越田（賢） 10月7日～平成22年3月31日
- * 平成21年度北海道文化財保護協会第3回役員会（札幌市）
〈理事〉越田（賢） 10月13日
- * 第2回史跡カリンバ遺跡整備計画策定委員会（恵庭市）
〈委員〉畑 10月28日

ウ 調査指導・講演会

- * 余市町栄町7遺跡出土の遺物分類などの指導（余市町）
〈派遣〉芝田 1月15日・16日
- * 札幌三信倉庫株式会社社員研修（札幌市）
〈講師〉畑 1月16日
- * 札幌ロータリークラブ例会（札幌市）
〈講師〉畑 4月15日
- * 北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルバ（札幌市）
〈参加者〉西田 8月7日
- * 北の縄文世界展実行委員会（札幌市）
〈講師〉越田（賢） 10月7日
- * 札幌医科大学収蔵アイヌ人骨・遺跡出土人骨イチャルバ（札幌市）
〈参加者〉西田 10月8日
- * 伊達市オコシンベの会「新・ロビー講座」（伊達市）
〈講師〉西田 10月24日
- * 世界文化遺産登録推進フォーラム「知る・語る縄文文化－縄文人追跡－」（札幌市）
〈講師〉畑 10月31日

- *北海道用地対策連絡協議会講演会（札幌市）
《講師》越田（賢） 11月4日
- *沙流川歴史館講座「遺跡からみたコタンの構造」（平取町）
《講師》三浦 11月7日
- *福島町歴史講座（福島町）
《講師》遠藤 11月7日
- *千歳市内出土近世木製品加工痕の調査指導
《派遣》三浦 12月2日
- *南北海道考古学情報交換会（函館市）
《発表者》影浦・大泰司・酒井 12月5日・6日
- *平成21年度北海道考古学会遺跡調査報告会（札幌市）
《発表者》熊谷・影浦・阿部 12月19日

(2) 研修

ア 研修・研究会参加

- *市民救護士講習（江別市）
1名 1月19日
- *平成20年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会（福岡県太宰府市）
1名 2月4日～6日
- *平成20年度埋蔵文化財担当者専門研修「生物環境調査課程」（奈良県奈良市）
1名 2月17日～25日
- *市民救護士講習（江別市）
1名 2月19日
- *上級救護士講習（江別市）
3名 3月19日
- *全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会（福岡県北九州市）
1名 5月21日・22日
- *全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会及び視察（札幌市・小樽市・余市町）
13名 6月11日・12日
- *第21回埋蔵文化財写真技術研究会（奈良県奈良市）
1名 7月3日・4日
- *全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等研究委員会（愛知県名古屋・弥富市）
2名 7月16日・17日
- *日本第四紀学会2009年大会（滋賀県草津市）
1名 8月28日～30日
- *平成21年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会（大阪府大阪市）
1名 9月3日～5日
- *平成21年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会北海道・東北地区会議ならびに同北海道・東北地区コンピュータ等研究委員会（山形県米沢市）
3名 10月15日・16日

- *上級救護士講習（江別市）
1名 11月19日
- *平成21年度埋蔵文化財担当者専門研修「自然科学的年代決定法課程」（奈良県奈良市）
1名 11月30日～12月4日
- *全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修（中国）
1名 12月9日～14日

イ 内部研修

- *メンタルヘルス講習会（センター研修室） 1月22日
- *平成21年度現地研修会（北斗市・木古内町・知内町・福島町） 9月17日・18日
- *平成21年度現地調査報告会（センター研修室） 11月26日

5 平成21年度刊行予定報告書

- 第262集 『白老町 虎杖浜 2 遺跡(5)・ボンアヨロ 4 遺跡(2)』
一般国道36号白老町虎杖浜ボンアヨロ 4 遺跡外埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第263集 『白滝遺跡群X』
旭川紋別自動車道遠軽町遠軽地区埋蔵文化財発掘調査業務報告書
- 第264集 『恵庭市 柏木川 4 遺跡(4)』
柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第265集 『恵庭市 西島松 2 遺跡』
柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第266集 『森町 石倉 1 遺跡(2)』
北海道縦貫自動車道の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第267集 『千歳市 オルイカ 2 遺跡(3)』
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第268集 『千歳市 アンカリトーフ 7 遺跡・アンカリトーフ 9 遺跡』
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第269集 『千歳市 梅川 4 遺跡(2)』
一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第270集 『富良野市 学田三区 2 遺跡・学田三区 3 遺跡』
旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第271集 『下川町 サナル 4 線遺跡(2)』
天塩川サンルダム建設事業の内埋蔵文化財発掘調査報告書
- 第272集 『北斗市 矢不來 8 遺跡(3)・矢不來 9 遺跡(2)・矢不來10遺跡(2)・矢不來11遺跡(3)』
高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

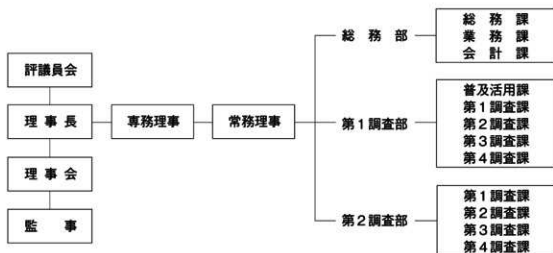
6 組織・機構

役員 (平成21年7月20日現在)

理事長	坂本均	常勤
専務理事	松本昭一	常勤
常務理事	畑宏明	常勤
理事	石林清	非常勤
理事	菊池俊彦	非常勤
理事	北川芳男	非常勤
理事	莊司信一	非常勤
理事	田端宏	非常勤
理事	藤島省三	非常勤
理事	三野紀雄	非常勤
理事	森重植一	非常勤
監事	佐藤一夫	非常勤
監事	村山邦彦	非常勤

評議員 (平成21年7月20日現在)

評議員	氏家等	非常勤
評議員	川上淳	非常勤
評議員	木村方一	非常勤
評議員	佐藤俊和	非常勤
評議員	昌子守彦	非常勤
評議員	白崎三千年	非常勤
評議員	谷直人	非常勤
評議員	鶴丸俊明	非常勤
評議員	戸塚隆	非常勤
評議員	西幸隆	非常勤
評議員	松田光院	非常勤
評議員	横山健彦	非常勤



7 職 員 (平成21年6月1日現在)

総務部

総務部長	中田仁
総務課長	松本繁
主任	葛西宏
主査	今本信
主査	北浦満
主査	石田八郎

業務課長	菅野聡
主任	礪田千秋
主査	小杉杉充
主査	小笠原学
主査	大山良準
主査	山本昌一
主査	吉田貴和
主査	中村貴志

第1調査部

第1調査部長	越田賢一郎
普及活用課長	鎌田望
主任	藤本昌子
主任	倉橋直孝
主任	藤井浩
第1調査課長	田口高
主任	花岡正光
主任	吉田裕史
第2調査課長	三浦正人
主任	越場雅和
主任	末光正卓
主任	広田良成
第3調査課長	鈴木信
主任	立川トマス
主任	菊池慈人
主任	新家水奈人
主任	芝田直人
主任	山中文雄
主任	酒井秀治
第4調査課長	熊谷仁志
主任	谷島由貴
主任	鈴木宏行
主任	坂本尚史
主任	直江康雄

第2調査部

第2調査部長	西田茂
第1調査課長	遠藤香澄
主任	中山昭大
主任	影浦覺一
主任	福井淳理
主任	立田和雄
第2調査課長	佐藤研興
主任	笠原肥品
主任	土部明由
主任	阿柳瀬佳
第3調査課長	佐川俊一
主任	皆川洋一
主任	富永勝也
第4調査課長	村田大子
主任	袖岡淳
主任	佐藤剛
主任	大泰司

調 査 年 報 22

平成21年度

平成22年2月5日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685-1
TEL 011-386-3231・FAX 011-386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp/>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリ
〒061-1195 北広島市西の里507番地1
TEL 011-375-2116(代)・FAX 011-375-2115
